

黙 想 (黙 祷)

招 詞 主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、
近くにいますうちに。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
(『讃美歌 21』93-1-31)

讃美歌 300 (十字架のもとに)

主の祈り

讃 詠 28 (み栄えあれや)

聖 書 マタイによる福音書 16章21節～28節
(新約 32頁)

信仰告白 使 徒 信 条

メッセージ 「自分の十字架を背負う」 多田玲一牧師

祈 祷 ※それぞれ自由にお祈り下さい

讃美歌 411 (うたがい迷いの)

頌 栄 27 (父・子・聖霊の)

黙 想 (黙 祷)

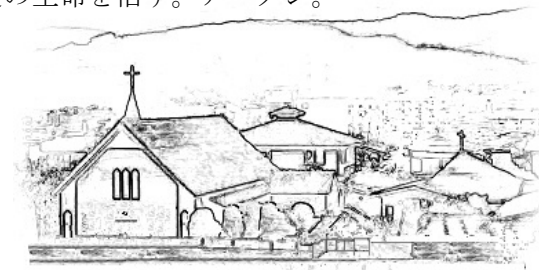
◎ 讃美歌は歌詞を読むだけでも結構です。

【主の祈り】 (『讃美歌 21』93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。
み国を来(きた)らせたまえ。
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。
アーメン

【信仰告白 使徒信条】 (『讃美歌 21』93-4-A)

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがへり、
天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、
かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、
身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。



日本基督教団 福岡女学院教会

牧 師 多田玲一

協力牧師 青木麻里子、大島一利

〒811-1321 福岡市南区柳瀬1丁目41-32

Tel 092-591-5627 (Fax 兼)

教会ホームページ [http:// www.fukujoch.com/](http://www.fukujoch.com/)

(教会創立 1946年6月2日)



3月23日 マタイによる福音書 16章21節～28節

◆イエス、死と復活を予告する

- 21 このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。
- 22 すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」
- 23 イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」
- 24 それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」
- 25 自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。
- 26 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。
- 27 人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。
- 28 はっきり言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、人の子がその国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

※聖書は本文は全て、日本聖書協会『聖書 新共同訳』